

平成 30 年度 第 1 回
魚津市子ども・子育て会議会議録

平成 30 年 7 月 30 日 (月)

平成30年度 第1回 魚津市子ども・子育て会議

- 1 日 時 平成30年7月30日(月) 14時30分から15時50分まで
- 2 場 所 魚津市役所 第一委員会室(4階)
- 3 出席者 【魚津市子ども・子育て会議委員(16名)】

| | |
|--------|---------------------------|
| 奥田 實 | (富山県立大学 名誉教授) |
| 中村 重明 | (魚津市社会福祉協議会 事務局長) |
| 高木 姿子 | (魚津市民生委員児童委員協議会 主任児童委員) |
| 河崎 真理子 | (魚津市保育研究会 会長(松倉保育園長)) |
| 金屋 栄子 | (魚津市民間保育連盟 代表(ほんごうこども園長)) |
| 新夕 佳子 | (魚津市幼稚園教育研究会 代表(大町幼稚園長)) |
| 水橋 涉 | (魚津市小学校長会 代表(清流小学校長)) |
| 宝田 幸嗣 | (魚津市中学校長会 会長(西部中学校長)) |
| 滝川 貴行 | (魚津市PTA連合会 代表) |
| 大嶋 昭子 | (魚津市母子保健推進員連絡協議会 副会長) |
| 高瀬 忠次 | (魚津市公民館連合会 代表(経田公民館長)) |
| 谷林 正昭 | (魚津市自治会連絡協議会 代表) |
| 大崎 敏治 | (魚津商工会議所 事務局長) |
| 西尾 秀樹 | (連合富山魚津地域協議会 幹事) |
| 高木 寛子 | (公募) |
| 荒木 沙矢佳 | (公募) |

欠席者【魚津市子ども・子育て会議委員(2名)】

| | |
|--------|--------------------|
| 石倉 啓子 | (うおづ女性の会 監事) |
| 沼田 佳奈子 | (新川厚生センター魚津支所 支所長) |

傍聴人(1名)

事務局

| | |
|--------|-----------------|
| 矢田 厚子 | (民生部長) |
| 富居 幹生 | (教育委員会教育次長) |
| 宮野 司憲 | (こども課長) |
| 上坂 一弘 | (学校教育課長) |
| 森山 明 | (健康センター所長) |
| 舘 和生 | (学校教育課 学校教育係長) |
| 上田 洋美 | (健康センター 母子保健係長) |
| 石浦 満理子 | (こども課 子育て支援係長) |
| 堀内 京子 | (こども課 保育係長) |

4 審議内容

1 開会

(事務局)

只今より平成 30 年度第 1 回魚津市子ども・子育て会議を開催する。開催に先だって魚津市民生部長矢田厚子より挨拶をする。

2 あいさつ

(民生部長)

本日はご多用の中、またこの暑さが続く中、ご出席いただき厚く感謝申し上げます。皆様には日頃から児童福祉行政についてご理解とご協力いただき改めて感謝申し上げます。さて、皆様ご存知のとおり、国で平成 31 年 10 月に子育て家庭の経済的負担を軽減するため、3 歳以上の保育料等、また 3 歳児未満については住民税非課税の世帯の保育料等を無償化する政策を打ち出し、また富山県においても今年度 9 月から国に先んじて保育料の軽減拡大を図ることとしている。市においても、平成 29 年度から、同時入所の第 2 子保育料無料など子育て支援の拡充に努めている。今年度においては公立保育園 8 園で行っていた土曜保育を拠点化して実施するなど、本日の協議事項である平成 32 年 4 月開園予定の住吉保育園の民営化に向けた取り組みなど、社会環境の変化に応じた子ども・子育て支援事業計画の実現に努めている。会議では、この計画の進捗状況の報告をおこない、皆様からのご意見を頂戴し、よりよい子育て環境作りに活かしていきたい。今計画は来年度末で第 1 期が終了する。今年度は第 2 期計画策定に向けたニーズ調査を経て、魚津市の抱える課題をしっかりと見極め、それに対応できる内容にしていきたい。委員の皆様には、各方面からの忌憚のないご意見を頂戴しながら、取り組んでいきたいと思っている。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いしたい。

3 報告事項

⇒事務局より、報告事項(1)魚津市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について、資料①に基づき説明

(委員長)

この報告事項について質問、ご意見があれば挙手をお願いしたい。

(谷林委員)

進捗状況の中の平成 31 年度の欄の下に「継続」という言葉がいくつも出てくるが、この意味は何か。

(事務局)

平成 27 年度の数値が設定されており、平成 31 年度も同じようにその目標を達成していこうという意味である。

(谷林委員)

平成 27 年度と同じ目標数値ということでよいか。

(奥田委員長)

事業計画が平成 31 年度までということになっている。平成 31 年度を過ぎても、さらに改善して進めていくという意味だと思っているが、それでよろしいか。

(谷林委員)

ということになると、平成 31 年度の目標数値というのは、またどこか違うところに明記してあるのか。

(奥田委員長)

今後、第 2 期の計画の中で決めていくということによいか。

(事務局)

継続とあるのは、平成 27 年度のレベルを保つということがひとつあるのと、平成 27 年度に継続とあるのも含めると、以前の計画（魚津市次世代育成支援行動計画）の目標値を平成 27 年度に継続している。委員のおっしゃる通り、目標値が何なのか分かりづらいので、HP 等で公表するためにもしっかり対応していきたい。

(荒木委員)

8 ページの成人期に向けた保健事業、妊娠出産に向けた保健事業について、下の子が赤ちゃんのときに参加したことがあるが、ただ赤ちゃんとおふれあうだけだった。性教育について深く勉強するとか、妊婦の体験談を語ってもらうとか、赤ちゃんは必ず生まれるものではないとか、望まれずに殺される命を減らすためにおこなう授業も必要なのではないか。

(事務局)

この事業も健康センターと教育委員会と連携して行っており、このふれあい事業を行う前に座学で命の大切さを学ぶ講義を行っている。助産師や保健師によるものである。

(荒木委員)

こんなに大事にされて生まれてきたんだよっていうことを学ぶ機会はあるのか。

(事務局)

それについても、講義で話をしている。

(荒木委員)

もっとリアルな話があってもよいのではないか。きれい事だけでなく、赤ちゃんは絶対に生まれてくるものではないという話をもっとリアルに聞けたらいいと思う。

(事務局)

講義する助産師や保健師に、可能な範囲でそういった話も取り入れてもらうようお願いしていきたいと思っている。

(奥田委員)

ここに書いてあるほかにも、実際には中学校などでいろんな取組をされていると思うが、14歳の挑戦などでそういった機会を設けているところもあると思うが、そのあたりは中学校としては他に付け加えることはあるか。

(宝田委員)

今年は、1学期に助産師さんから命の大切さを、そして、男女の交際において相手を尊重しようというお話をきいてから、このふれあい体験をおこなった。2学期には性教育としてこういった機会を計画している。中学校3年間を通して、子どもたちがパートナーを尊重して将来家庭を築いていけるような基礎的な部分をつくれるよう、話を聞いたり体験したりして進めている。

(水橋委員)

清流小学校では、今年8組のお母さんと赤ちゃんをお呼びした。生徒数は約80人。なので、10人で1組のお母さん赤ちゃんとふれあった。『最初のたまごは本当に小さい小さいたまご』ということを教えてもらい、命の大切さ、素晴らしさを科学的根拠に基づいて助産師さんから講義を受けて、実際赤ちゃんとふれあった。ふれあうだけでなく、妊婦時に苦勞したことや注意していたことなどを聞いた。そのあと、『命のメッセージカード』といって、自分が生まれてきたことに対してお母さんに手紙を書き、お母さんからも生まれてきてよかったんだよという手紙をもらうという内容だった。この健康センターの取組は、小学生にとっては性教育にもなるし、命の教育にもなり、非常に意味のあることだった。学校の立場では、ありがたいと思っている。今荒木委員がおっしゃった内容は、実際には難しいところもあるので、発達段階に合わせ、中学生くらいになれば必要になるかなと思う。

(奥田委員長)

いろんな取組をされているので、その部分もフォローしていただけるとよいと思う。

⇒事務局より、報告事項(2)第2期魚津市子ども・子育て支援事業計画策定にかかる各種調査事業について、資料②に基づき説明

(委員長)

この報告事項について質問、ご意見があれば挙手をお願いしたい。

(谷林委員)

「量の見込み」という言葉がいくつも出てくるが、どういう位置づけなのか。公の用語なのか、魚津市の作った言葉なのか。子どもを産んで育てているのに、「量の見込み」というのは機械的で違和感がある。他の言葉はないのか。

(事務局)

「量の見込み」という言葉については、国の一定の基準としてこの言葉を使わせていただいております、全国ほとんどの自治体がこの文言を使用している。私たちが使うこの「量の見込み」というのは、「市が目指す目標値」とか、そういった言葉に置き換えることもできると思う。実際、その目標値を設定して魚津市のあるべき保育教育の環境とか子育ての環境に向かっていくことができると思う。達成できないような目標値を設定しても仕方ないので、一定程度見込の量を出さなければいけない部分もあり、そういった観点からこの言葉を使っている。何かいい表現があれば、魚津市独自で使用していくことも検討したい。

(奥田委員長)

第2期の計画策定で検討材料としていただきたい。

4 協議事項

⇒事務局より、協議事項(1)住吉保育園の民設民営化について、資料③に基づき説明

(委員長)

この協議事項について質問、ご意見があれば挙手をお願いしたい。

(高木委員)

3番目の子が3歳児で上口保育園に在園している。6/1に保育園から説明会の案内があった。急に6/8に説明会しますと言われ、夜勤の仕事で行くことができなくなった。急きょ説明会を開催することになったのは市としての判断なのか、保育園の方で決めたことなのか。実際に説明会に行った保護者に聞くと、質問しても何も決まっておらず答えられない様子だった。もう少ししてから説明会を開催してもよかったのではないかという意見があった。この説明会は住吉保育園でも開催したのか。

星の杜小学校の建設のときにも保護者の意見が取り入れてもらえたので、新園舎を建設するときも保護者の意見を取り入れてもらえるのか、魚津保育会に言えばよいのか。ホームページで進捗状況が分かるようお知らせをしていただきたい。

(事務局)

ご意見感謝する。6/8の説明会については市が先導したものではないが、園の方で少しでも早くお知らせしたいという気持ちがあったのだと思う。予定では6月初旬から中旬にという話だった。住吉保育園の保護者会については、以前よりアンケートをとったり、説明会をしたりしてきた。運営法人の選定委員会にも住吉保育園の保護者会長にはいつにいただき、保護者会への説明会が必要かどうか確認をした。選定委員会の内容についても保護者に報告したところ、あえてもう一度説明会をする必要はないとのことだったので、住吉保育園での説明会は開催しなかった。

新園舎の建設について、三者協議会を設置する予定なので、そこでご意見をいただきたい。三者協議会は、上口保育園、魚津市、両園の保護者代表で構成する。保護者代表は複数でもかまわない。

建設に間に合うよう、早めにご意見をいただきたいところもあるし、途中からでも意見を頂けるよう配慮したい。ぜひ忌憚のないご意見をいただき、よりよい保育環境になるよう努めたい。

(奥田委員長)

パブリックコメントの実施などもあり得るのか。

(事務局)

いくつか保育園や幼稚園の民営化を調べていて、パブリックコメントまで求めているような事例は確認できなかった。たとえば園の名称等、保護者以外からも公募することなど、その都度パブリックコメントの必要性を見極めたい。より広い意見を求めるためにも、方法を検討したい。

⇒事務局より、協議事項(2)放課後児童クラブ(学童保育)の施設利用状況等について、資料④に基づき説明

(委員長)

この協議事項について質問、ご意見があれば挙手をお願いしたい。

(荒木委員)

すずめ児童センターについて、定員を超えているため実施場所を追加するというのは、具体的にどういった方法なのか。立て直しも検討しているのか。

(事務局)

児童センターの中で、利用する部屋を広い部屋に変更しているということである。新しく建てるとかそういうことではない。現在の児童センターを工夫して利用し、ひとつの部屋にぎゅうぎゅう詰めにならないようにしている。

(高木委員)

資格者の確保などは、以前から課題として挙がっているが、市としての対策はどのように考えているのか。児童センターの職員の中には無資格者も何人かいると思うが、そういった職員の子どもへの対応を保護者が不快に感じていることもあると聞く。有資格者だけでなく、地域とも連携して職員を確保していくべきと思うが、市の考えを聞きたい。

(事務局)

ご指摘感謝する。現状として、市内の児童センターで4か所、公民館で5か所実施しており、職員については分散型の採用をおこなっている。児童センターは国の面積等の要件が足りず、定員超えている。望ましいのは、子ども達にリスクがないように近くで学童を実施するのが理想。その点、星の杜小学校には、学童専用スペースが設置され、面積要件もクリアされる。地元での学童保育を希望する保護者もいると思われるので、平成31年度にアンケートをとりつつ希望を聞いていきたい。ただ、清流小学校とひばり児童センターの距離は遠く、よつば小学校はスクールバスで送迎し

ているのが現状。つばめ児童センターも小学校からは700メートルほど離れており、村木小の2階を来年から利用する予定だが、こちらは1キロ近く遠くなる。歩くとなると安全面も心配になる。そのことをかんがえると、併設型が望ましい。しかし、新しい施設をつくるとなると財政的な負担も大きく、公共施設の再編等の取組等を考えると非常に悩ましい。まずは、保護者のご希望を聞いたうえでどこで学童保育をするのか望ましいかは、第2期子ども・子育て支援事業計画の中に具体的に盛り込み、そのためにもニーズ調査を行っていききたい。最終的にはより多くの方が満足できるよう努めたい。

(奥田委員長)

資格者の確保が難しいというのを、先ほど聞いた。待遇改善や資格の緩和が行われたと聞いている。そういう点もPRして確保していただきたい。よろしくお願ひしたい。

(新夕委員)

前から会議の話聞いていて感じていたが、限られた職員で多岐にわたる業務を行われている。課題についてもいろいろ出ていたが、サービスについて考えてもらうことも大事だが、市で抱えている課題が何なのか積極的に出していただいて、双方がすり合わせていけたらと思う。その中で市のPRをしていただけたら。求めたことをすべて叶えてもらうということが一番いいとは思いますが、なかなかそうはいかないので、お互いに努力しているということをアピールして、そのなかで何ができるかということをすり合わせていけたらいいのではないかな。

5 今後のスケジュール (予定)

⇒事務局より、今後のスケジュールについて説明

(事務局)

第2期子ども・子育て会議時期については、第2期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査がある程度結果報告できる段階でおこないたい。あわせて、現在市では、行政改革の一環として公共施設の再編を進めている。公立の保育園についても老朽化が進んでおり、修繕費では賄えていないところもある。小規模園の存続についても検討していききたい。こちらについても、進捗状況等を会議でお知らせしていききたい。次回の会議では、第2期のニーズ調査の件、公共施設再編の件、そのほか産前産後ケア施設の進捗状況、産婦人科開設の取組状況、学童施設の件、を具体的にご説明するためにもなるべく早く機会を設けたい。年明けになってしまうかもしれない。書面協議での開催も視野に入れつつ、奥田委員長としっかり話し合いすすめていききたい。

(奥田委員長)

他に意見がなければ閉会としたい。本日頂戴したご意見以外にもあれば事務局までお願ひしたい。先ほど新夕委員からもあったように、多岐にわたってやっていただいている。他の市町村の状況も聞いているが魚津市は非常に一生懸命取り組んでいただいている。日本、魚津市の未来は子ども達にかかっている。忌憚のない意見を頂戴して、よりよい子育てを目指していただきたい。魚津市は本当にいい教育をされているんじゃないかと思う。さらにこれを発展させていただきたい。本日は

ありがとうございました。

6 閉会

(事務局)

奥田委員長、ありがとうございました。委員の皆様にも貴重なご意見を賜りましたことに御礼申し上げます。本日はお疲れ様でした。

以上